



- 甲府やまなみクラブ会長主題：Think Globally Act Locally 藤原 一正
- あずさ部長主題：よい結果をもたらす心の安定と考える力を 森本 俊子（長野）
- 東日本区理事主題：未来のために今、学びと気づきを、未来のために、
自信を育み、真の喜びに出会う！ 山田 公平（宇都宮）
- アジア太平洋地域会長主題：変革のための光となろう 利根川恵子（川越）
- 国際会長主題：輝かそう、あなたの光を Ulrik Lauridsen（デンマーク）

甲府やまなみ
ワイズメンズクラブ
2023年 11月
No.14

●今月の強調目標

BF・iGo・STEP

●今月のことば

「To exist is to resist.(存在することは抵抗すること)」

福田奈里子さん 選

今月の例会案内（第14回）

- 日時：2023年11月1日（水）18:30～20:30
- 会場：シャトレゼホテル談露館
- 司会：米山 俊彦 君
- ・開会点鐘 松本 公夫 副会長
- ・ゲスト・ビジター紹介 司会者
- ・ワイズソング 一同
- ・会長挨拶 松本 公夫 副会長
- ・今月のことば 福田奈里子 さん
- ・ワイズディナー
- ・ゲスト卓話「相続登記の義務化について」
新谷淳一行政書士事務所 新谷 淳一 様
- ・ニコニコタイム・諸報告
- ・ハッピーバースデー&アニバーサリー
- ・YMCAの歌 一同
- ・閉会点鐘 松本 公夫 副会長

10月のデータ

会員数:12名 例会出席:10名
 例会出席率:83%
 ビジター:衣笠輝夫(埼玉)
 ゲスト:橋本晶子さん・風間奈月さん(山梨YMCA)・渡邊結菜さん(山梨Yリーダー)
 ニコニコ:5,000円(累計:18,200円)

ハッピーバースデー

メ 菅沼 和也 (11/8)

アニバーサリー

該当者なし

Photo of monthly



10月21日(土)、あずさ部部大会が、長野市の善光寺事務局講堂にて開催され、藤原会長と仙洞田さんが前年度の会員増強に貢献したとしてプースター賞を受賞しました。

今月のことば

福田奈里子さん

ずいぶん前に、パレスチナのガザ地区を訪れた友人からの写真に写っていた、分離壁に書いてあった一文が忘れられません。日本で生まれ育った私には簡単に「どちらが正しい」などとジャッジすることはできませんが、自らの全存在をかけて国家間の暴力に抗う人々がいることを思うとき、彼ら・彼女らの存在をわたしたち自身が本当の意味で「見て」いるのか、自問を促される一文です。

●●●● 10月例会報告 ●●●●

仙洞田安宏

やまなみクラブ10月例会は、10月4日(水)山梨YMCAにて開催されました。

今月は「ユースナイト」と称して、AYC(アジア太平洋地域ユースコンボケーション)とYVLF(ユースボランティア・リーダーズフォーラム)に参加した山梨YMCAのお二人に、それぞれの報告を伺いました。そんなプログラムのせいか、今年度のYVLFの実行委員長で東日本区のユース事業委員会委員でもある衣笠輝夫さん(埼玉)も出席され、挨拶の中で、東日本区のユース事業が大きく変わることに、山梨YMCAのユース活動への期待が述べられました。

YVLFに参加した渡邊結菜さんは山梨英和大3年生で山梨YMCAでは学童を担当しています。またAYCに参加した風間奈月さんは山梨Yに入職4年目で現在南西教室で学童を担当しています。お二人と



10月例会ニコニコメッセージより

▼AYC2023および第35回YVLF報告会に感謝して甲府やまなみクラブ定例会に参加できて感謝(衣笠輝夫・埼玉)

▼渡邊様、風間様、貴重なお話しありがとうございました。(藤原 一正)

▼ユースお二人の体験談の報告は素晴らしかったです。(松本 公夫)

▼YMCAユースの皆様、ご苦労様です。また機会を作ってお話を聞かせてもらいたいです。(渡邊 隆)

▼ユースの活動がわかり、大変良かったと思います。(三井 雅之)

▼ユースのお二人の発表に頼もしく思いました。自分もさらに頑張らないといけないと思いました。お二人とも楽しみながら取り組んでいて、楽しむということの大事さを改めて感じました。(土橋 順)

▼今日の例会は会員数以上の出席者があり、賑やかで充実した例会でよかったです。(仙洞田安宏)

も他のユースたちとの交流を通して貴重な体験をされたと思います。今後の活躍が期待されます。風間さんは今回のAYCの団長に選出され、さらに2023～2025のAYCユース代表にも選ばれました。

これまでではどちらかと言うとユース活動が低調だった山梨YMCAですが、ここ数年活発な活動が顕著になり、これからが楽しみです。

諸報告では、①藤原会長から、香港でのアジア太平洋地域大会に参加した後チェンマイへも行くので、チェンマイクラブを再訪したい ②土橋会員より、10/15の郷育フォーラムの案内 ③福田担当主事より、10/31ユースリーダー会主催「アジアに学ぶ夕べ」の案内、などがありました。

出席者、メン:藤原・松本・米山・遠藤(恭)・渡邊・大澤・土橋・三井・仙洞田・福田、ビジター:衣笠輝夫(埼玉)、ゲスト:橋本晶子・風間奈月(山梨YMCA)・渡邊結菜(山梨Yユースリーダー)



今後の予定

- ✓11月11日(土) 大澤英二召天三周年記念講演会(11:00～山梨Y)
- ✓12月6日(水) 12月例会 (18:30～山梨YMCA)
- ✓12月5日(火)～17日(日) まちかどの近代建築写真展(藤村記念館)
- ✓12月20日(水) クラブ役員会(山梨YMCA)

第27回あずさ部部大会に参加して

米山 俊彦

10月21日(土)、長野市の善光寺で行われました「第27回あずさ部部大会」に参加をしました。

観測史上最高と言われた今夏の暑さもさすがに終わりを告げ、秋の装いに移り変わりつつある信濃路への小旅行でした。参加者は、北海道の十勝クラブをはじめ、あずさ部以外のクラブからも多くの会員の皆さんが集い、山梨からの30名を含め、総勢79名の盛況な部大会となりました。やまなみクラブからは、藤原会長、仙洞田さん、大澤さん、福田さんと米山の5名が参加をしました。

部大会は、善光寺事務局の講堂で行われ、ステージ奥の中央には大きな仏壇が造られていて、仏様が安置されたこれまでにない荘厳な雰囲気の間でした。

第一部では、会員増強の功績に対して国際協会から授与されるブースター賞を藤原会長と仙洞田さんが受賞されました。また、特に傑出した働きをした部長に与えられるエルマー・クロウ賞を富士五湖クラブの後藤明久さんが受賞されるとともに、AYC参加費補助金の贈呈を甲府21クラブが受けるという山梨のクラブにとっては、喜ばしい事が重なった部大会でした。

懇親食事会の後の記念講演は、善光寺のご住職であり、長野クラブの会員でもある福島貴和さんによる「平和の懸け橋プロジェクトの今」という演題でご講演をいただきました。そのお話は、図らずも、今、世界中の関心が注がれているイスラエルとパレスチナに関連する内容でした。福島さんが、これまで「平和の懸け橋プロジェクト」として、現地や日本において、イスラエルやパレスチナの子供達の交流を支援され、活動されてきた経験とともに、この問題の背景にある歴史や社会状況などについてもお話をいただきました。

イスラエルやパレスチナでは、宗教上の考え方の違いや歴史的に長く続く深い感情的な対立から子供達にも「憎しみが新たな憎しみを生む事」を教えていると

聞きます。

連日、報道されるイスラエルやパレスチナ双方の悲惨な現状を目の当たりにする中で、今思う事は、「憎しみでは何も解決しない」という事です。大きな困難があってもそれを乗り越えてお互いを理解し、共に生きていく事の大切さです。

この講演を通して、改めて、平和の尊さを実感するとともに、その平和を求める地道な草の根の活動に深く敬意を表したいと思います。

第四部では、落語と日本舞踊、それに箏、三味線と太鼓という邦楽コラボレーションを楽しみました。演題は、善光寺由来の一席である「お血脈(おけちみやく)」というお話でした。「お血脈」とは、額に押しってもらう事で、極楽浄土が保証されるという善光寺の宝印「ご印文(ごいんもん)」の事で、江戸時代の善光寺信仰の広がりとともに、その「お血脈」が評判になって生まれた古典落語を基にして作られたお話だそうです。

箏や三味線、太鼓が風情のある舞台を演出する中で、地獄の閻魔大王や石川五右衛門が登場するという愉快なお話でした。(落語ですから！)



【善光寺事務局の前で】

部大会の終了後は、大会参加者の皆さんとともに、善光寺の永代宿坊「常智院」で、北信濃の旬の食材をふんだんに使った精進料理に舌鼓を打ちました。

ただ一つの心残りは、善光寺の参拝が叶わなかった事でしたが、他のクラブメンバーとの交流も含め、楽しくも意義深い部大会となりました。



温故知新～史料室の書棚から

現在山梨YMCAで整備を進めている史料室について、ワイズメンズクラブ関係の史料の整備を担当しています。先日、甲府クラブの史料を整理していましたら、1988年5月29日に行われた甲府クラブの役員研修会での講演録「わたしの夢見るワイズメンズクラブ」がありました。講師は故布能寿英さんです。何回かに分けて掲載しますが、残念なのは、一部落丁があり完全な形で掲載することができません。原文のまま掲載します。
(仙洞田安宏)

「わたしの夢見るワイズメンズクラブ」

—異質の中の同質に学ぶ—第1回

布能 寿英

1. はじめに

1ヶ月程前、松村会長(編集者註:現在甲府21クラブの松村豪夫さん)から新年度役員研修会で何か話をせよとの指示を受けた。その時、とっさに私がワイズメンを語るには“ふさわしくない”と思ったが、日頃松村会長の一貫した真摯な姿勢と、誠実なクラブ運営に、常に敬意をもっていたので、この要請にいささかなりとも応えねばならぬと思い、引き受けた次第である。

平素、甲府クラブ会員の一人として、ワイズメンについて、何かしら考えており、又私なりの希望と期待もあることも事実である。

私の好きなことばの一つに、英国の喜劇俳優チャップリンの言った「人生を生き抜くことはたやすいことだ。それは希望と勇気とサム・マネーがあればよい」を、いまも思い出し、このことばに押し出される思いで、私の考えていることを話してみたい。

2. ワイズメンズクラブの源流

私は常日頃、この世には奉仕クラブがたくさんあることは、極めてのぞましいことだと思っているものの一人である。現在、世界的奉仕クラブはたくさんあるであろうが、歴史をたどってみると、わがワイズメンズクラブは、実に世界で二番目に古く誕生した、名門クラブなのである。

最初に生まれたのは、ロータリークラブで、1905年に、次がワイズメンズクラブで、アメリカ、オハイオ州、トレードで発足したのが1922年であった。

日本では、1928年11月10日大阪クラブが産声をあげ、わが甲府クラブは、それから22年後の、戦後のキズ跡のまだいぬ1950年5月19日に、東京クラブのスポンサーで生まれた当年38才の壮年のクラブなのである。

もともとサービスクラブのルーツは、17世紀の前半、欧米先進国の政治家仲間、自然発生的にクラブが生まれ、それから政策意見を共通する者が結合して、これがやがて政党に発展していったといわれている。クラブを名乗る限り、いずれの異なったクラブも同じであろうが、とりわけ、ワイズメンズクラブにあっては、良質の会員を処何に、多く糾合し、ワイズメンの掲げる目標に向かって、実践活動を拡めていくかにあると思う。(続く)

■布能寿英さん(1927～2020)の経歴

甲府クラブのチャーター翌年の1951年2月に入会、1961年クラブ会長、1975年日本区Yサ事業主任、1986年東部部長(エルマー・クロウ賞受賞)、2009～2010年度の東日本区奈良傳賞を受賞。

山梨YMCA関係では、1990年～1999年常議員会議長、1999年～2004年理事長。また、1993年に「財団法人布能育英会」を設立、同年紺綬褒章、1999年県政功績者表彰、2009年にキリスト教功労者顕彰を受けられています。



山梨 YMCA 総主事

中田 純子

「自答自問の大切さ」

皆さん唐突ですが、今、困っていることはありますか。また、その困っていることを解決するために何をしていますか。さらに解決できた自分を想像できますか。

人には一人ひとりさまざまな個性があります。3つの問いは、しっかりと自分を見つめ観察できているのかと問いかけるものです。

私たち人は自分を理解し、自分を大切にできる事が求められると私は常日頃から思っています。自分には人と人のその中にあり、育ち行く姿・育ち合う姿が必ずあります。それを捉え視点を移していくと喜怒哀楽、更に感謝が生まれます。これは人が生きるためにとても大切であると思うのです。

ワイズメンズクラブの皆様を見ていると、この3つの質問をいつも自分の中に持ち行動しているお姿があります。私自身、羨ましく、見習うべきであると自分を反省する毎日に未熟さを実感しています。しかし、まだまだ成長段階であると自分を励ましたりしています。

YMCA運動は子ども大人も育ち、お互いが結びついて地域コミュニティーを豊かにしていくことにあります。自分だけでなく共に生きる共生社会の構築こそが個を生かす未来への近道です。自分をみつめながら、私の居場所であるYMCAに視線を落とすと輝きでいっぱいです。

11月は山梨YMCA一大イベント「チャリティーバザー」が開催されます。多くの皆様と繋がり、自分自身を見つけ、すべての人々がよくなっていくことを目指して行きたいと思いますので、ご賛同いただきご協力をお願いいたします。当日が皆様にとりまして心地よく過ごせる時となりますようお祈りいたします。